

## 直腸静脈瘤に対する Hybrid surgery の有効性・安全性について

### 【はじめに】

肝硬変症の合併症である食道胃静脈瘤に対しては、内視鏡的治療やIVRが主に行われます。しかし、直腸静脈瘤などの異所性静脈瘤に関しては、標準的治療がないのが現状であり、直腸静脈瘤出血は、ひとたび出血すれば、肝硬変症がベースにあるため、致命的出血になる可能性があります。

当科では、直腸静脈瘤出血例に対して、hybrid surgeryを行っており、本研究では、当科で経験した肝硬変症に伴う直腸静脈瘤症例に対するhybrid surgeryの有効性・安全性について明らかにすることを目的としています。

### 【対象】

別府医療センターにて 2015 年から 2021 年 12 月までに当科で直腸静脈瘤症例に対する hybrid surgery を受けた 4 名の患者さんを対象としています。

研究の対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

### 【研究内容】

カルテを後方視的に調べ、有効性（静脈瘤消失の有無、再発の有無、生存期間、肝機能悪化の有無、肝移植の有無）および術後の合併症について、評価します。

本研究では、診療録に記載された内容のみを用いて研究を行いますので、患者さんに負担が生じることはありません。

### 【個人情報の管理について】

本研究は「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従って実施します。個人情報の漏洩を防ぐため、臨床研究に関する氏名等の個人情報は削除し、第三者が個人情報を閲覧できないようにしております。

また、本研究の実施過程、および結果の公表（学会発表・論文発表）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれないように配慮しています。

### 【研究期間】

倫理審査委員会承認日より令和 5 年 12 月 31 日まで

### 【医学上の貢献】

非代償性肝硬変に伴う直腸静脈瘤出血例に対しても安全・確実に行うことのできる方法と考えられ、内視鏡治療やIVRだけでは難しい症例に対しても安全に施行可能であれば、直腸静脈瘤の患者さんにとっての有効な低侵襲治療となりえます。

### 【研究責任者】

国立病院機構別府医療センター 消化器外科

川中博文

連絡先：〒874-0011

別府市大字内竈1473番地

TEL：0977-67-1111

FAX：0977-67-5766